演題番号：P-052

# 介護老人保健施設における義歯清掃の取り組みと効果

〇川島　茂（株式会社シケン）
坂田克己（株式会社シケン）
川口武史（株式会社シケン）

# 日本顎咬合学会
# 利益相反開示

**筆頭発表者名：川島　茂**

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

# 【目的】

　介護老人保健施設では義歯を装着している方も多く施設のスタッフも取り扱いに困ることが少なくない。私たちは義歯のメンテナンス、義歯清掃の重要性を伝えていく目的で、2004年から徳島県内３か所の介護老人保健施設で各施設年3回(4か月に1回)訪問しデイサービスを利用している方を中心に義歯清掃を続けてきた。感染予防や食への意欲が増してきたとの主観的な意見は聞くが、今回は客観的な効果がどのように違いがあるのかについて2019年に調査した。
また、歯科に対する意識調査アンケートも実施したので報告する。

# 【方法】

（図1）

**1**・3施設11名の唾液検査を唾液検査用装置SillHa(シルハ)(アークレイマーケティング株式会社)(図1)を使用し、4~6か月の間隔をあけて3回行い、むし歯菌、酸性度、緩衝能、白血球、タンパク質アンモニアの6項目を測定し、それぞれ数値化した平均値を比較する。

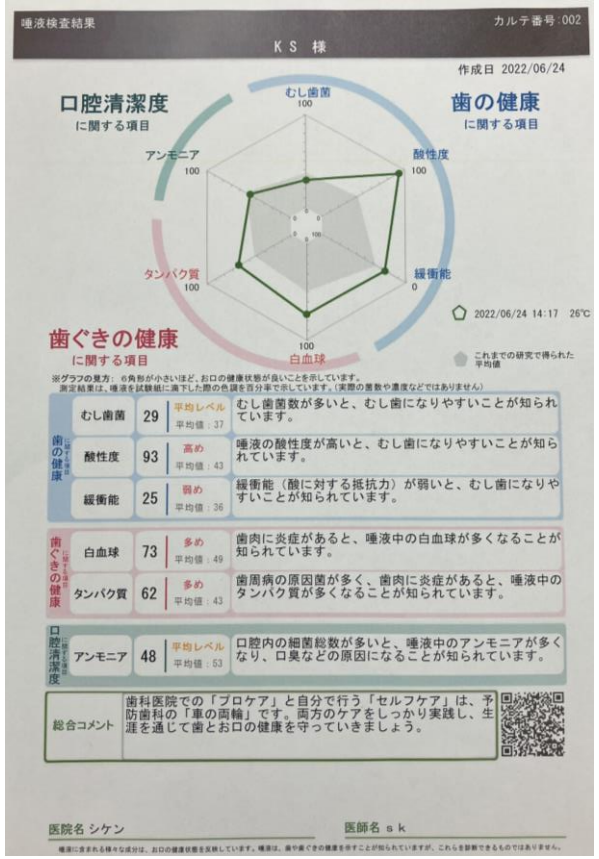
**2**・3施設67名を対象に、性別、年齢、介護度、生活環境、1日の歯磨き回数、1日の入れ歯洗浄回数、誰が洗うか、入れ歯磨き方法、歯科医院が必要な時は、歯科医院の利用法、訪問歯科診療を希望するか、食べられない物は、嚥下はしやすいか、の13項目のアンケートを実施しデイサービス利用者の歯科への現状意識調査を行い考察する。

# 【方法】

## 3・唾液検査項目

| 項目 | 説明　　（アークレイマーケティング株式会社：資料参考） |
|---|---|
| むし歯菌 | むし歯菌が多いと虫歯になりやすい |
| 酸性度 | 酸が高いと虫歯になりやすい |
| 緩衝能 | 酸に対する抵抗力 |
| 白血球 | 歯肉に炎症があると、白血球が増えやすい |
| タンパク質 | 歯周病の原因菌が多く、歯肉に炎症があると、唾液中のたんぱく質が多くなる |
| アンモニア | 口腔内の総菌数が多いと、唾液中のアンモニアが多くなり、口臭の原因になる |

注釈１：グラフの見方は、数値が小さく、6角形が小さいほどお口の状態が良い事を示す。
注釈２：測定結果は、唾液を試験紙に滴下した際のスコア値を百分率で示す。
注釈３：緩衝能については、逆指数の為、今回は100－測定値で数値を示す。
注釈４：個人では各回６項目の平均値を比較、項目別では各回被験者の平均値を比較する。
注釈５：今回の指標として以下の基準で、考察の評価とする。
＊良好傾向＝平均値の低下が２０以上である。
＊維持傾向＝平均値の低下が２０未満である。
＊悪化傾向＝平均値の上昇がみられる。



唾液検査結果シートの例（図2）

# 【結果と考察】

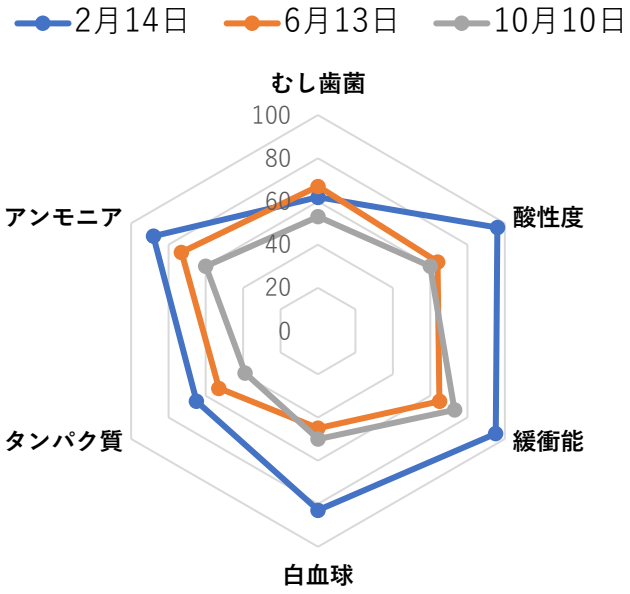
## １・個人別唾液検査推移　良好傾向の一例

### Y施設

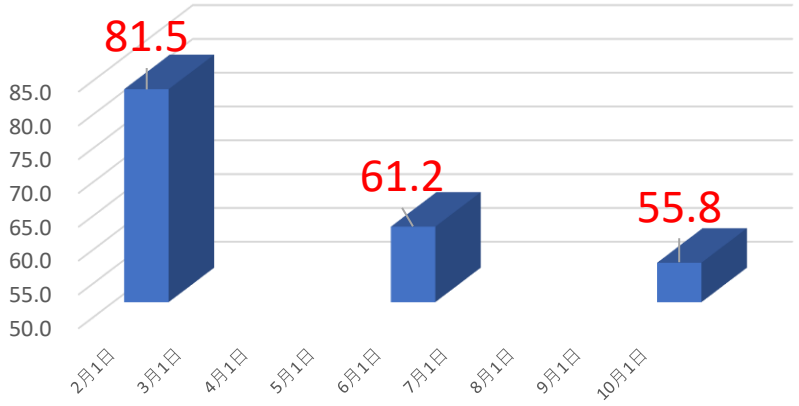
女性
96歳
要介護２
在宅

| 11・Y・Y様 | 2月14日 | 6月13日 | 10月10日 |
|---|---|---|---|
| むし歯菌 | 62 | 67 | 53 |
| 酸性度 | 96 | 64 | 60 |
| 緩衝能 | 95 | 65 | 73 |
| 白血球 | 83 | 45 | 50 |
| タンパク質 | 65 | 53 | 39 |
| アンモニア | 88 | 73 | 60 |
| 良好傾向　各検査日の平均値 | 81.5 | 61.2 | 55.8 |

### 良好傾向
### Y施設　Y・Y様




### 良好傾向
### Y施設　Y・Y様　各検査日の平均値



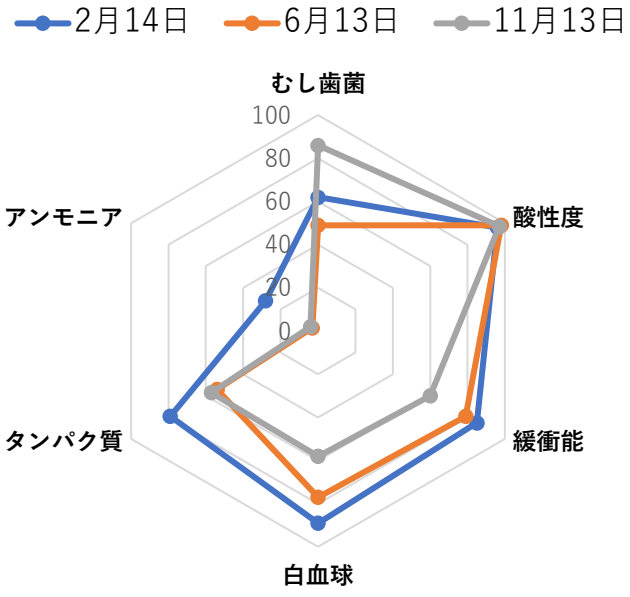
# 【結果と考察】

## ２・個人別唾液検査推移　維持傾向の一例

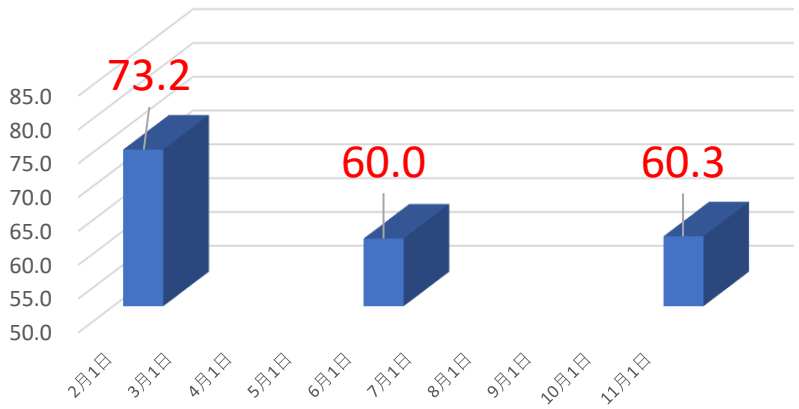
### Y施設

| | 14・T・Y様 | 2月14日 | 6月13日 | 11月13日 |
|---|---|---|---|---|
| 女性 | むし歯菌 | 62 | 49 | 86 |
| 90歳 | 酸性度 | 96 | 98 | 97 |
| 要支援２ | 緩衝能 | 85 | 79 | 60 |
| 入居 | 白血球 | 89 | 77 | 58 |
| | タンパク質 | 79 | 54 | 57 |
| | アンモニア | 28 | 3 | 4 |
| 維持傾向 | 各検査日の平均値 | 73.2 | 60.0 | 60.3 |

### 維持傾向
### Y施設　T・Y様




### 維持傾向
### Y施設　T・Y様　各検査日の平均値



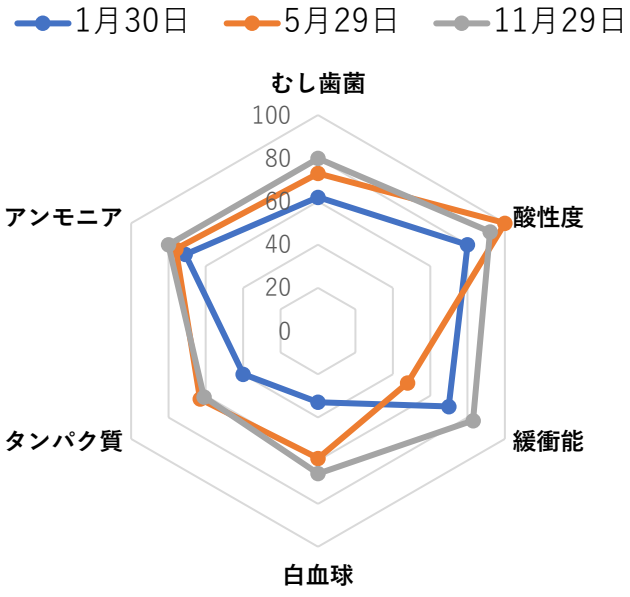
# 【結果と考察】

## ３・個人別唾液検査推移　悪化傾向の一例

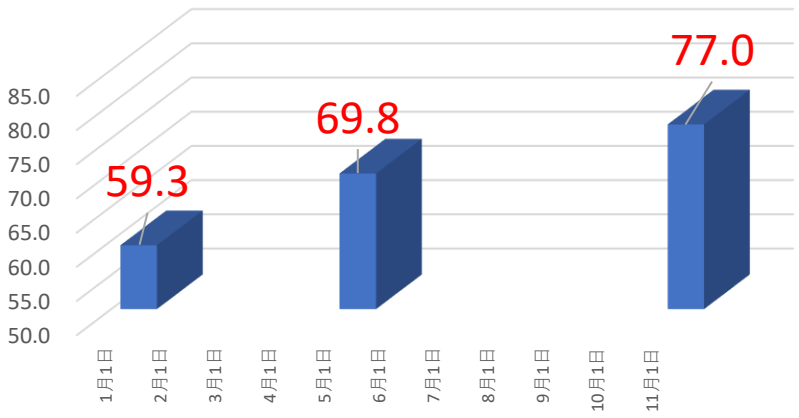
### J施設

| | 33・K・S様 | 1月30日 | 5月29日 | 11月29日 |
|---|---|---|---|---|
| 女性 | むし歯菌 | 62 | 73 | 80 |
| 85歳 | 酸性度 | 80 | 100 | 92 |
| 要支援２ | 緩衝能 | 70 | 48 | 83 |
| 在宅 | 白血球 | 33 | 59 | 66 |
| | タンパク質 | 40 | 63 | 61 |
| | アンモニア | 71 | 76 | 80 |
| 悪化傾向 | 各検査日の平均値 | 59.3 | 69.8 | 77.0 |

### 悪化傾向
### J施設　K・S様




### 悪化傾向
### J施設　K・S様　各検査日の平均値



# 【結果と考察】

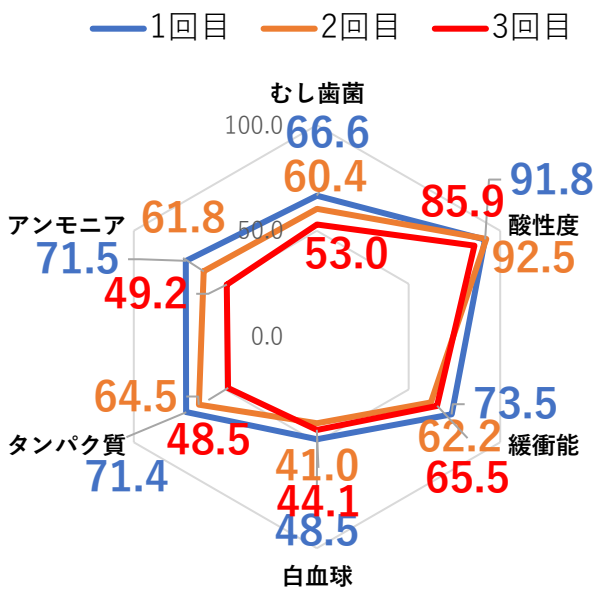
## 4 ・施設別評価人数　（単位：人数）　n=11

| 施設別評価 | Y施設 n＝5 | J施設 n＝5 | H施設 n＝1 | 比率 |
|---|---|---|---|---|
| 良好傾向 | 3 | 1 | 0 | 36.3% |
| 改善傾向 | 2 | 3 | 1 | 54.5% |
| 悪化傾向 | 0 | 1 | 0 | 9.2% |

## 5・検査項目別平均値評価　（単位：平均値の数値）n=11　SD=標準偏差

| 検査項目別 | 1回目（±SD） | 2回目（±SD） | 3回目（±SD） | 項目別評価 |
|---|---|---|---|---|
| むし歯菌 | 66.6（±20.7） | 60.4（±11.3） | 53.0（±18.2） | 維持傾向 |
| 酸性度 | 91.8（± 8.2） | 92.5（±13.5） | 85.9（±12.9） | 維持傾向 |
| 緩衝能 | 73.5（±10.7） | 62.2（±14.0） | 65.5（±10.1） | 維持傾向 |
| 白血球 | 48.5（±34.0） | 41.0（±26.6） | 44.1（±24.4） | 悪化傾向 |
| タンパク質 | 71.4（±15.6） | 64.5（±20.6） | 48.5（±13.9） | 良好傾向 |
| アンモニア | 71.5（±17.9） | 61.8（±27.0） | 49.2（±24.4） | 良好傾向 |
| 平均値 | 70.6 | 63.7 | 56.0 | 維持傾向 |

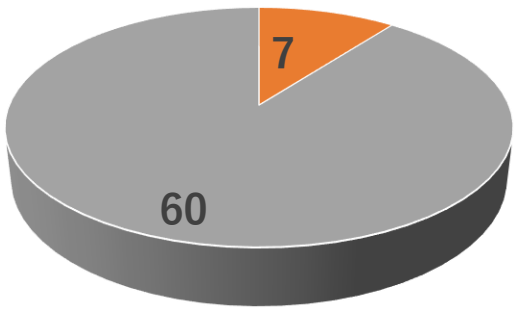
検査項目別平均値評価によるチャート



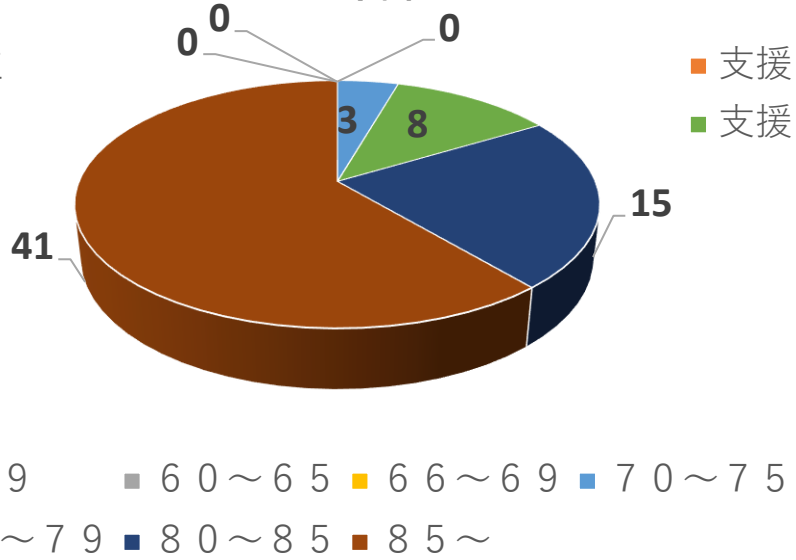
# 【結果と考察】

## ６・歯科への意識調査アンケート集計グラフ　　n=67（単位=人数）

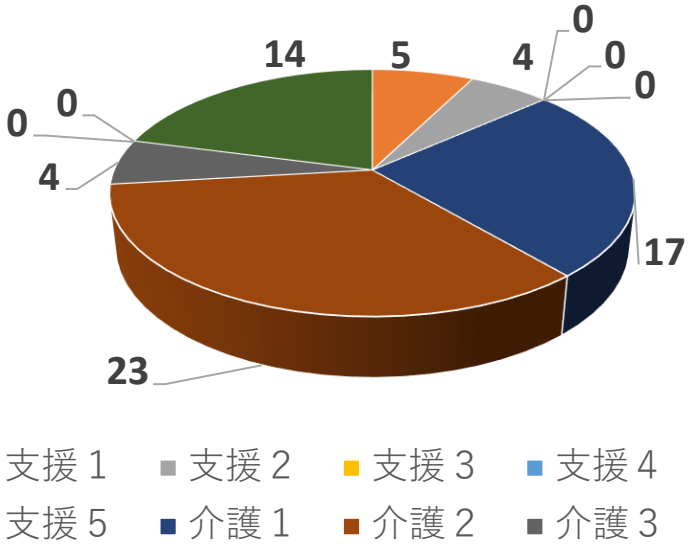
### １・性別



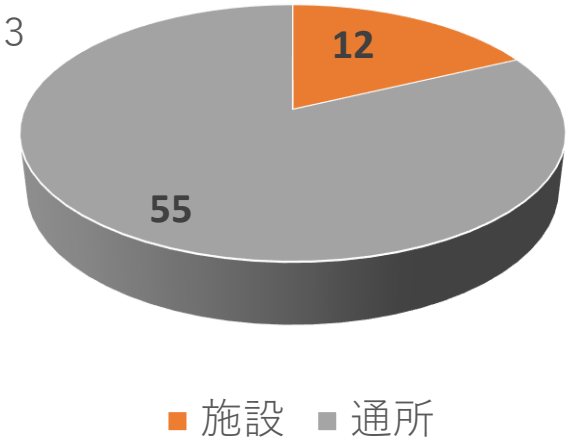

### ２・年齢




### ３・介護度



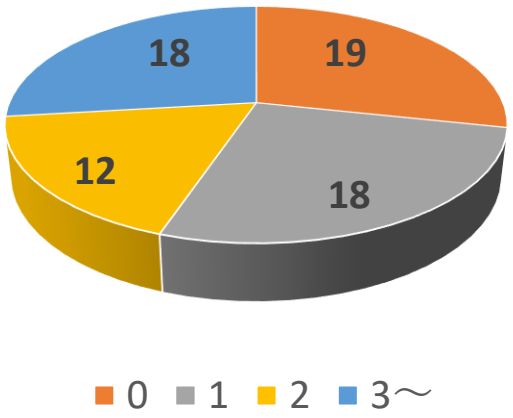

### ４・生活環境



# 【結果と考察】

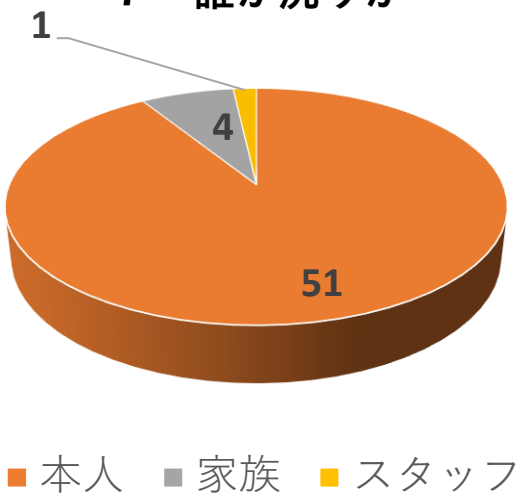
n=67（単位=人数）

**5・1日の歯磨き回数**

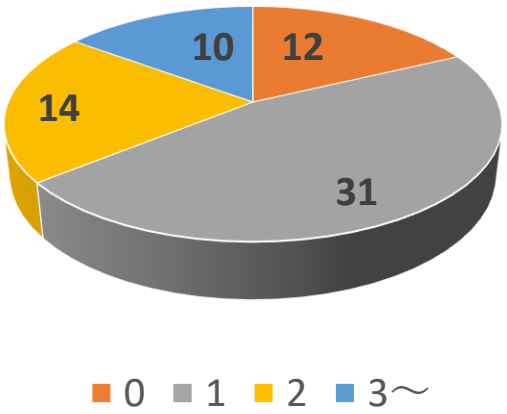



0回の内訳
無歯顎16名
磨かない3名

**7・誰が洗うか**

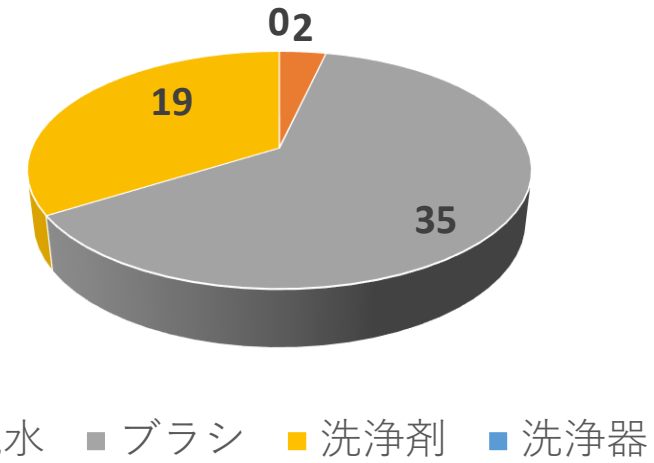



**6・１日の入れ歯洗浄回数**




0回の内訳
入れ歯なし11名
磨かない1名

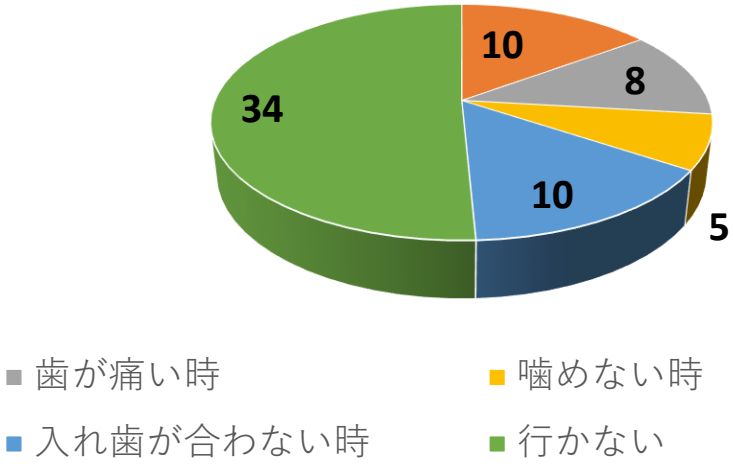
**8・入れ歯磨き方法**



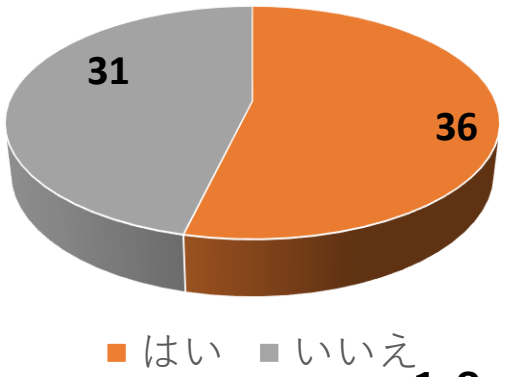
# 【結果と考察】

n=67（単位=人数）

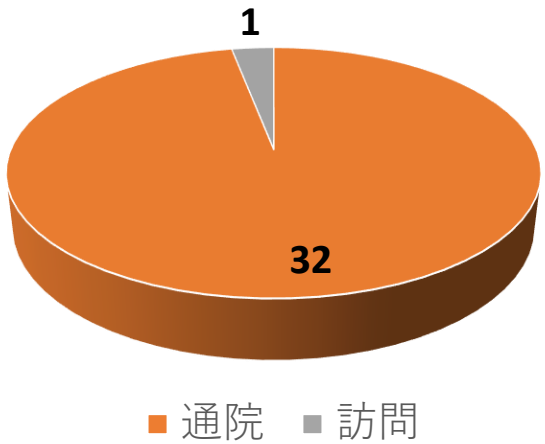
## ９・歯科医院が必要な時は



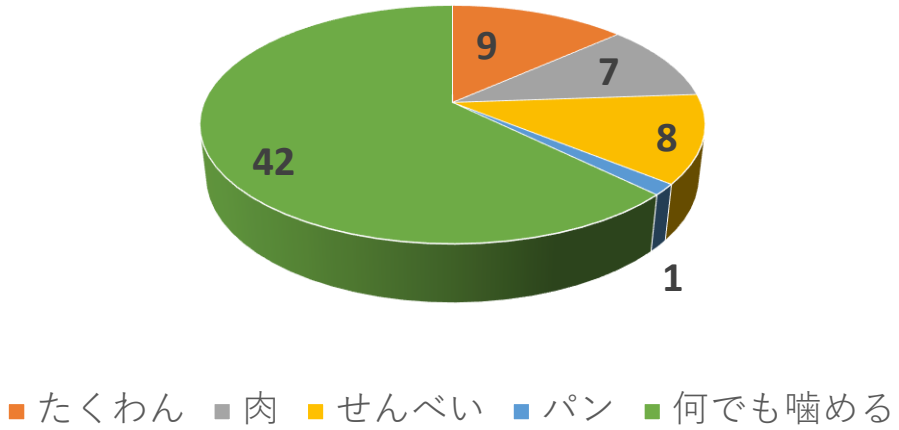

## １１・訪問歯科診療を希望するか




## １０・歯科医院の利用法



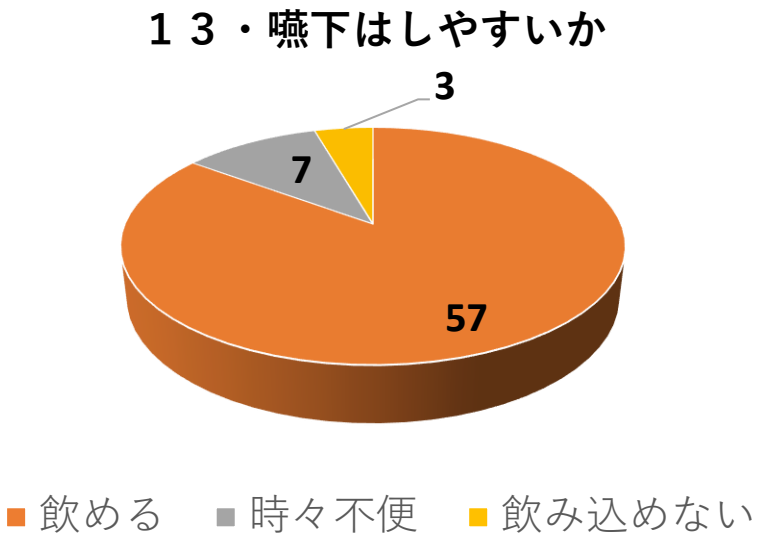

## １２・食べられない物は



# 【結果と考察】

n=67（単位=比率）

n=67（単位=人数）




## ７・アンケートからの考察

| | |
|---|---|
| １・女性 | 89.5% |
| ２・８５歳以上 | 61.1% |
| ４・通所 | 82.0% |
| ５・1日の歯磨き回数3回以上 | 26.8% |
| ６・1日の入れ歯磨き回数1回 | 55.3% |
| ７・本人が洗浄している | 91.0% |
| ８・入れ歯ブラシのみ使用 | 62.5% |
| ９・歯科に行かない | 50.7% |
| １０・訪問歯科診療利用 | 1.4% |
| １１・訪問歯科診療を希望 | 53.7% |
| １２・何でも食べられる | 62.6% |
| １３・嚥下不良 | 14.9% |

# 【結論】

　今回の唾液検査では独自の指標を設けて比較したが、被験者の36.3%が良好、54.5%が維持の傾向を示し、各項目においても平均値が徐々に低下した。その要因は、義歯清掃で衛生面の向上が図られた事と推測するが、一方では対話をする事で口腔の健康に対して意識が高まったと考える。私達、歯科技工士がボランティア活動の義歯清掃を通じて、口腔ケアの必要性を啓発する事は、健康増進に効果があると示唆される。アンケートの一部を抽出し考察した結果から、デイサービス利用者は女性(85歳以上)が多いが、咀嚼嚥下障害も少なく、何でも食べられることが、健康で通所利用できていると裏付けられる。健康長寿でいられる答えの一つは、外に出る事、社会に触れる事であり、今回のアンケートからも全身の健康と口腔の衛生状態には大きな関係性を持ち、健康な時から定期的な歯科のメンテナンス、治療が重要であると考える。また訪問歯科診療に対して希望している方が半数を超えている事から、今後これに対する準備は必須である。